

第 295 回郵政民営化委員会後 委員長記者会見録

日時：令和 8 年 2 月 26 日（木）17 時 15 分～17 時 25 分

方法：Web 会議

○司会 ただいまから、郵政民営化委員会、山内委員長によりまず記者会見を行います。

本日もオンライン形式の会見とさせていただきます。恐縮ではございますが、マイクのほうは基本的にミュートにさせていただき、御発言の際のみミュートを解除していただければと思います。御協力をよろしくお願いいたします。

冒頭、山内委員長から御発言をいただき、その後、質疑応答とさせていただきます。

それでは、委員長、よろしくお願いいたします。

○山内委員長 郵政民営化委員会委員長の山内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員会は第 295 回ということでございますが、本日の委員会冒頭において、第 293 回委員会として本年 1 月 8 日から 14 日にかけて行いました「郵政民営化の進捗状況についての総合的な検証」、これに関する文書審議を行いました。そして、第 294 回委員会として本年 2 月 9 日及び 10 日に行いました郵便局視察等について、これは事務局から報告があったというところであります。

まず、1 月の第 293 回委員会については、3 年ごとに行う、いわゆる郵政民営化の進捗状況についての総合的な検証、これについて、今般、これを開始して、その一環として、本年 1 月 19 日から有識者へのインタビューやアンケートを行うということをこれは文書で審議をしたというものでございます。

それから、2 月の第 294 回委員会でございますけれども、これは 2 月 9 日及び 10 日に、山口県の周南市及び柳井市の郵便局の視察等を行ったというものであります。

周南市の徳山郵便局では、地方の郵便局における配達業務の現場、これを視察させていただいたということでもあります。

それから、周南市の中山間地域にある高瀬郵便局、それから、柳井市の離島であります平郡島というところですが、ここにある平郡郵便局では、市から受託するオンライン診療・服薬指導の支援業務、これを視察させていただきました。

加えて、これらの郵便局に業務を委託する両市と、それから、郵便局を活用したオンライン診療・服薬指導の経緯、状況及び課題等、こういうものについて意見交換を行ったところでもあります。

現在、事務局において視察結果の詳細については取りまとめを行っていただいておりますので、次回の委員会において報告していただく。こういう予定になっているところであります。

本日の会議ですけれども、本日の議題は、日本郵政グループの 2026 年 3 月期第 3 四半期決算等についてであります。日本郵政グループ各社からヒアリングを行いました。

議事の内容については、配付資料を御覧いただければよろしいかと思っております。

日本郵政グループの2026年3月期第3四半期決算についての質疑でありますけれども、代表的なものはトナミ運輸に関するものでありまして、御承知のように、JPがトナミグループを子会社化したということでありまして、これがいわゆるB to B、事業者同士の物流ですけれども、この強みを持っているのがトナミである。一方で、日本郵便の場合にはC to C、消費者間の物流ということになるかと思うのですけれども、それが強みであるという場合に、特にトナミと日本郵便のシナジー。これをどう発揮していくのか、これからどういう事業展開を戦略として取っていくのかというような質問がございましたということであります。

これは私も感想として言わせていただくと、トナミグループの子会社化で結構、財務的な状況が影響を受けて改善された。こういうこともあるので、非常に重要な戦略・策略だったと思っておりますけれども、それに対して今のような質問が出たというところでありまして。

これに対して、日本郵便からの御回答ですけれども、子会社化をした、その段階からまだ時間がたっていないという中で、現在は双方の担当者がコンソーシアム等を通じてシナジーを検討中であるということ。そして、物流施設とか運送便の共同化、あるいは倉庫の統廃合等によるコスト削減。こういったものを見いだしていきたいということであったそうであります。先ほど言いましたB to Bと、それから、B to Cの強みを持つトナミの知見。これも得ながら、次期中期経営計画の骨子。ここにも書かれているわけですが、いわゆる総合物流事業者への転換というものを図るのだ。こういう御回答をいただいたというところでありまして。

そういうことでありまして、今日の主な質疑ということでありまして。

以上、御説明ということでありまして。

○司会 委員長、ありがとうございました。

それでは、質問をお受けいたします。

御質問のある方は御発声、または挙手ボタンでお知らせください。

郵湧新報の園田さん、よろしくお願ひします。

○記者 郵湧新報の園田です。お世話になります。

有識者の3年ごとの検証の中でインタビューを始められたというところで、例えば今回の決算とか、あと、骨子について、どのような意見が出ているとか、その辺りは何かありますでしょうか。

○山内委員長 まだ始めたところですので、もちろん、何人かの方にお会いしていますので意見をいただいておりますけれども、まだそれを皆さんに御披露できるような、そういう段階ではないと思っています。もちろん、インタビューしていただいた方の個人的な御意見をいただいておりますので、やはり外に出すときにはそういうものを総合した形で出すの

がよろしいかと思しますので、まだそこまで至っていないかなというところでもあります。

○記者 ありがとうございます。

○司会 それでは、通信文化新報さん、お願いします。

○記者 通信文化新報の永見です。

すみません。今回、視察に山口県のほうに伺ったということなのですが、特に平郡島の平郡局なのでありますが、総務省の実証事業が行われていて、ここは割と数少ない本サービスをやっているところにつながったところなのでありますが、視察されて、どのような意見交換や感想などがありましたでしょうか。

○山内委員長 私自身は、非常にリモートのこういったサービスについて興味を持っていて、重要なことだと思っているのですが、具体的な内容は事務局のほうからお答えいただいたほうがよろしいかなと思います。

○岡本次長 事務局でございます。

次回委員会までに視察結果の全体については取りまとめをすることになっておりますが、概略を申し上げますと、平郡島のほうでは、御指摘いただいた、実装された郵便局を活用したオンライン服薬指導の実態を見せていただくとともに、現場の医療従事者の方などとの意見交換もしました。また、委託元である柳井市さんとも意見交換をさせていただきました。この中で、郵便局を活用したオンライン服薬指導の導入によって、薬の院内処方を院外での処方へ切り替えることができ、使用する薬剤の充実を図ることができたとか、あとは現地の看護師さんの負担軽減で、ほかの部分に向ける、看護業務の時間確保につながるということができたというメリットがあって、意義深いというようなお話もいただいたところでございます。

以上です。

○記者 ありがとうございます。

○山内委員長 よろしいですか。

ほかはどなたか。

○司会 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、以上で会見を終了させていただきたいと思っております。

山内委員長、御出席の皆様、どうもありがとうございました。

○山内委員長 どうもありがとうございました。失礼いたします。

以上